

2020年1月22日14-16時に、「高齢者の運転は社会悪か!？」をテーマとする集まりが成城男デ  
ィ倶楽部(車部会)の主催で開かれました。そのとき私は、一高齢ドライバーとしての思いを10分ほど  
頂いてお話しする機会を得ました。以下は、そのとき使ったパワーポイントに説明文を加えて、参加  
されなかった方でも話をフォローできるように編集した記録です。

\*\*\*

2020年1月22日 成城男ディ倶楽部車部会企画の集い “高齢者の運転は社会悪か!？”

## ドライブの楽しみを、できるだけ長く続けたい

8丁目の大橋秀雄

88歳、27歳のときドイツで免許取得、ドライブ歴60年。保険の世話になった事故歴はない。  
12台の愛車で走行距離50万キロ(内欧米で6万キロ)。50歳頃から左足ブレーキ。

1

ピーター・ライオンさんのお話しは、高齢ドライバーが必要とするすべての情報を網羅したもので、大変参考になりました。私の話しは「ドライブの楽しみをできるだけ長く続けたい」という願望から発したもので、私にとってドライブとは何か、それを続けるためにどんな心掛けでいるか、正直にお話しさせていただきます。

上のスライドにあるように、私は現在88歳、27歳のときドイツで免許を取得して以来、ドライブ歴は60年になりました。今まで保険の支払いを受けるような事故歴はありません。これまで12台の愛車を乗り継いで、総走行距離は50万キロに達しました。そのうち、ヨーロッパやアメリカなど外国で6万キロほど走りました。地球一周が4万キロですから、地球を12周したことになります。50歳を過ぎた頃、左足でブレーキを踏むように切り替えました。

### 私にとってドライブとは:

心身の全能をかけた試合  
心と体の総合活性剤

#### 高齢者の運転

マイナス思考→事故リスクの増大→免許返納

プラス思考→活性の持続→引き籠もり・寝たきりの防止→医療・介護費用の削減→保険制度の健全化→国家財政破綻の回避

2

まず、私にとってドライブとは何か、お話しします。上のスライドにあるように「心身の全能をかけた試合」という表現を選びました。楽しいドライブが試合とは大げさな、と思われるでしょう。でも私がドライブを終えて車から降りるときの気分は、試合が終わったあとの爽快感と通じるところがありま

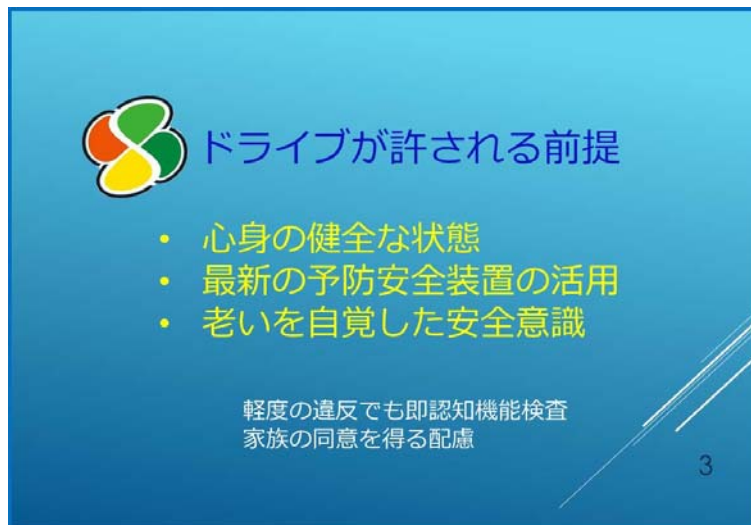
す。試合では集中と緊張が続きます。運転も同じです。刻々と変わる周囲の状況に対応して適切な対応をとり続けなければなりません。これは、自分の命はおろか、他人様の命もかかった真剣勝負です。何を競うかという、安全を競うといいでしょう。終わったあとの達成感や開放感は試合もドライブも変わりはありません。

話す相手もない独り暮らしを続けていると、時折気分が滅入って何をやる気も起きない無気力な状態に陥ることがあります。そんなときは、1時間でもいい、近場をさっとドライブしてくると、気分がさっぱりして滅入ったことなど忘れてしまいます。集中と緊張が雑念を吹き飛ばしてくれますし、近頃の車は「この先に一時停止があります」などとしきりに話してくれるので、「分かった、有り難う」など会話を楽しむこともできます。車を降りるときは、すっかり元気になっています。

ドライブは私にとって「心と体の総合活性剤」でもあります。ヘンなドリンクよりは、よほどよく効きます。これを手放せといわれると、それだけで老化がぐっと進んでしまいそうです。

高齢者の運転に関する論調は、近頃マイナス思考が優勢です。上のスライドに書いたように、高齢になると事故リスクが増大する、だから免許を返納せよという、運転することのマイナス面だけを見ています。

運転には、私の体験をお話したように、プラスの面もあります。上のスライドのように、老人の心身を活性化する、これにより引き籠もりや寝たきりを防止する、医療や介護に要する費用を低減する、保険制度の健全性を担保する、そして国家財政の破綻を回避するという壮大なシナリオも成り立ちます。これがプラス思考です。マイナス思考一点張りから、プラスとマイナスのバランスがとれた論調に変わることを切に期待します。



**ドライブが許される前提**

- 心身の健全な状態
- 最新の予防安全装置の活用
- 老いを自覚した安全意識

軽度の違反でも即認知機能検査  
家族の同意を得る配慮

3

高齢者は、いつかは運転を止めなければなりません。自動車はかなり高価な私有物でありながら、公道という公共の場でしか使い道がありません。公益に反しないという条件の元で私物の使用が許されているのです。私は公道でドライブが許される前提として、スライドに掲げたように、心身の健全な状態、最新の予防安全装置の活用、老いを自覚した安全意識の三つを考えています。いまは、その前提が満たされるかどうか、自分で判断できていると思っています。心配なのは、その判断力が衰えてきたことです。認知機能検査などで判断の衰えを検知できるのか？私はこれまで4回その検査を受けて、連続100点でした。それでも、前提が満たされるかどうかの総合判断は、認知機能検査を越えたレベルの問題と感じています。最後は子供に判断を委ねるしかない、今は思っています。

後期高齢者になると、免許更新のたびに、認知機能検査と講習が求められます。それだけでなく、交

通違反をすると、一時停止違反のような軽度のものでも、認知機能の低下が疑われて再検査が求められます。交通規則を守ることに、若いとき以上に気を付ける必要があります。

運転についても、家族とのコミュニケーションはとても大切です。私は 200 キロを越すようなドライブに出掛けると、途中で、今ここにいるよと、写真を添えてラインで子供達に報告します。戻ってきたら、無事戻ったよとラインします。子供が親の運転について、現状を十分把握できるように配慮する。いつも気持ちよく「気を付けてね」と励ましてくれる子供が「止めてね」というようになれば、これは真剣に考えるべき時機到来です。家族とのコミュニケーションを密にすることは、車の調子に気をつけると同じように大切なことです。



私の現状をすべてお話ししました。まだしばらく運転を続けさせていただきたいので、よろしくお願ひします。

ご清聴有り難うございました。

—End—